2Yp-7

# 乳幼児をもつ母親の性格と育児不安の関連

佐賀大教育　中西雪夫

目的　乳幼児をもつ母親の育児不安に関するこれまでの研究によれば、母親の社会的人間関係の広さや父親の育児協力などが育児不安の程度に影響を与えていることが明らかにされている。育児不安と子どもの生活の一側面が関連をもっていることも示唆されている。本研究では、母親の行動傾向や情意的側面に注目することにより、育児不安が低い母親はどのような性格の母親であるのかを明らかにする。

方法　調査対象者：佐賀市内の乳幼児をもつ母親 247人　調査方法：調査票に基づく面接調査　調査内容①調査対象者の属性②育児不安の程度③性格（Ｙ－Ｇ性格検査の中から社会的外交・支配性・一般的活動性・神経質・劣等感・抑うつ性の６尺度を採用）　調査時期：1993年７月～８月

結果　育児不安測定尺度の有効性を確認した後、調査対象者を育児不安あり群(120人）、育児不安なし群（115人）に群分けした。育児不安の程度と性格の関連を分析した結果、育児不安の低い母親は外向的・支配的・活動的・神経質でない・劣等感が少ない・抑うつ性が少ない性格の母親であることが明らかになった。育児不安の高い母親は内向的・服従的・非活動的・神経質・劣等感が強い・抑うつ性が大きい性格の母親であった。これらの結果は$\chi^2$検定によりいずれも統計的に　有意な差であることが確かめられた。